

『伊豆沼・内沼で19年ぶりにゼニタナゴの生息確認』

2015年9月4日

伊豆沼・内沼で定期的に行なっている魚類調査で、ゼニタナゴの生息が確認されました。沼の定置網調査でゼニタナゴの生息が確認されたのは実に19年ぶりのことです。



伊豆沼・内沼では、毎年7月と11月に小型定置網を使って沼の魚類相をモニタリングしています。今年も7月に調査を行なったところ、沼に設置した4枚の網のうち2枚で、それぞれ1匹ずつ、合計2匹のゼニタナゴが捕獲されました（上写真の赤丸）。

伊豆沼・内沼では、1990年代後半に増加したオオクチバスによって、沼に生息するタナゴやハゼなどの小型魚類が大きく減少しました。ゼニタナゴについては、1996年に捕獲されたのを最後に、沼での生息は確認されなくなりました。

そのため、オオクチバスが増加する前の沼の環境を取り戻すために、2001年よりオオクチバスの駆除活動が行なわれてきました。2004年からは、ボランティアグループのバス・バスターズとともに卵や稚魚の駆除によるオオクチバスの繁殖抑制に取り組んできました。

バス・バスターズの駆除活動を開始してからは、オオクチバスの駆除数は年々減少してきました。2009年になると、オオクチバスが増えてからは見られなくなっていたモツゴやタモロコなどの小型魚類が増加してきました。近年には、テナガエビやハゼ科魚類なども増加しはじめ、少しずつ昔の沼の姿に近づいてきました。そして、今年には19年ぶりにゼニタナゴの生息が確認されました。

昔のようにたくさんのゼニタナゴが沼を泳ぐようになるためには、まだまだ課題がありますが、今後もオオクチバスの駆除活動を継続し、伊豆沼・内沼の自然再生に取り組んでいきたいと思えます。

[この内容は、9月4日付の河北新報みやぎ版に掲載されました]